

## 論 説

## 21世紀の1/5—2001年, 2011年, 2020年から

From the One-Fifth of the 21st Century—2001, 2011 and 2020

吉 田 英 生\*

YOSHIDA Hideo



## 1. はじめに

本誌2001年1月号で「21世紀への世界からのメッセージ」という新世紀への大きな期待と一部不安を込めた特集を、筆者は編集実行委員として担当させていただいた。あれから早20年——21世紀の1/5が過ぎようとしている。しかし、新世紀の幕開けに、2001年9月11日のアメリカ同時多発テロ事件、2011年3月11日の東日本大震災、そして2019年に端を発する2020年の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的拡大と、ほぼ10年間隔でこれらの恐ろしいことが立て続けに起ころうとは、誰も夢にも思わなかったに違いない。

本号に2ページ寄稿の機会をいただいたので、この2ページを少しでも意義あるものと思案した結果、これらの三大災害について筆者が深く感銘を受けた珠玉の言葉をまとめてご紹介することで、読者の方々の記憶にも留めていただけるようなアーカイブとなることを願う次第である。

## 2. アメリカ同時多発テロ事件——ソムリエの妻

「ソムリエの妻」は加藤周一氏が新聞に寄稿した記事<sup>1)</sup>のタイトルである。事件後、ドイツにいた加藤氏が、ニューヨークに住む小説家 Irene Dische 氏のドイツ語記事<sup>2)</sup>に触れて引用・コメントしたものである。



その記事のなかで私がいちばん感動したのは、崩れ落ちたWTCの最上階の料亭で働いていた——従って十一日に死んだ——ソムリエの若い妻の話である。

その名前はわからない。TVで有名なバーバラ・ウォルターズ女史が事件直後に行った女たち——それぞれの家族や恋人や親友を失った女たちの会見番組の中に彼女がいて、みずからの考えを話したということしかわからない。(中略)

彼女は、死んだ夫がアメリカ国民に伝えたかったことがある、という。「え、それは何ですか」とウォルターズ女史。彼女はカメラの方へ向きなおって、「復讐とか報復と

かいうことを彼は必ず拒否するでしょう。彼は犯人と話したかった。その死をさかさまにして、私たちが他の人間の血を流してはなりません」と言う(引用は大意)。ウォルターズ女史は驚き呆れて、それは一体どういう意味か、一方の頬を打たれたら他方をさし出せとでも言うのか、と詰問する。そのときソムリエの妻は少しも騒がず、自分の立場を主張したという。「夫は話し合いが暴力よりも実り多いものだ」と信じていました。私たちはこのような犯罪がくり返されるのを防ぐように努めなければなりません。それには、私たちが憎む人々と共通の理解に達しなければならないのです」と。

これは事件後しばらく経ってからの話ではなく、当人がその夫を殺された直後の話である。犯罪者の動機には憎悪があり、その相手に対する感情的反応も当然憎悪にちがいない。しかし彼女の精神は、ただちに現場でその憎悪を越え、憎悪の表現としての暴力的報復よりも、問題を解決するための手段としての話し合いを択んだ。そこには人間精神の高貴さがある。そこには自爆テロを辞さない男たちの勇気を越える勇気があり、星条旗を振る群衆と報復を呼号する指導者に対して今はない夫の信念を貫こうとしてひるまない美しい魂がある。

## 3. 東日本大震災——東京電力社員と楽天野球選手

この未曾有の天災が引き金となって未曾有の人災が発生した直後、「大震災がわれわれに突き付けた…」という言葉をよく目や耳にした。しかし、今にして思えば、残念ながら一時的な流行り言葉のように軽く用いられた場合も少なくないように、筆者には感じられる。

筆者が東日本大震災の爪痕を2012年11月に訪れたときのことは、本誌で報告した<sup>3)</sup>。その後、本会主催の福島原子力発電所の見学会(2013年7月, 2019年8月)にも参加させていただいた。そのときの衝撃——とりわけ、本来は美しい田畑が一面に広がっていたはずの平野が鬱蒼とした藪と化していた——から深い感銘を覚えるのが、事故当時、福島第一原子力発電所防災安全グループだった佐藤眞理氏の以下の言葉である<sup>4)</sup>。佐藤氏は、原発事故直後の限界状況でいろんなものが麻痺してしまい、もとの自分に戻って涙したのはさらに5か月ほどしてからだったと述べる。

\*京都大学工学研究科航空宇宙工学専攻教授  
〒615-8540 京都市西京区京都大学桂  
E-mail: sakura@hideoyoshida.com



だんだん時間が経って、やっとう、思い出したり振り返って見られるようになっていったんですね。私が本当に泣いたのは、あれは八月頃ですかね。私たちは、いろいろ復旧で誰もいない町の中を歩いて行くんですよ、川内村とか、いろんなところに行くんですけど、本当に牛とかが死んでいたり、キツネとかが出てきたり……骨と皮だけになってね。私、しょっちゅう行ってましたから、キツネが恐る恐る寄って来たこともあります。あれ、あの尻尾、キツネだよ、って言いながら、その日持ってたあんぱんを車から降りて行って、あげたんです。それを見てたら、あんまり痩せて、哀れで……。私、その時、もう本当に突然、バーッと涙が出てきたんですよ。人間だけじゃなく、なんの関係もない動物まで、こんな目に遭っているということが、この土地一帯をこんなことにしちゃったって……。動物までこんなになってしまうんだと。牛もだんだん、だんだん、骨がゴツゴツしてくるし、子どもが生まれてても、もう死んでたりとかね。本当に悲しかったですよ。そういう生き物が苦しんでいるのを見た時に、地元の人が事故で受けた被害の大きさがより胸に迫ってきて、本当に泣きました……。痩せさらばえて骨ばかりになった動物を見た時、申し訳なさと、こんなことをしてしまった自分たちへの怒りがこみ上げて、涙が止まらなくなってしまったんです。



自ら事故直後の対応に死に物狂いで立ち向かった後、深い責任感にも満ちたなんと感銘深い言葉ではなからうか。一方、東北に限らず日本全国を鼓舞してくれた言葉もある。2011年4月29日、東北楽天ゴールデンイーグルスの嶋基宏選手（日本プロ野球選手会会長）は本拠地で以下のように決意表明し<sup>5)</sup>、2年後の2013年秋には星野仙一監督や田中将大投手とともに巨人と戦って4勝3敗で日本一を達成したことは多くの日本人の記憶に残っていることだろう。



震災後、選手皆で「自分たちは何ができるか」「自分たちは何をすべきか」を議論し、考え抜き、開幕5日前、初めて仙台に戻ってきました。

変わり果てたこの東北の地を目と心にしっかりと刻み、遅れて申し訳ないという気持ちで避難所を訪問したところ、皆さんから「お帰りなさい」「私たちも負けないから頑張ってるね」と声を掛けていただき、涙を流しました。そのとき、なんのために僕たちは戦うのか、はっきりしました。この1カ月半で分かったことがあります。それは「誰かのために戦う人間は強い」ということです。

#### 4. 新型コロナウイルス感染拡大——メルケル独首相

本会元理事で、編集実行委員会もご一緒させていただき、

その後も多々ご指導いただいている東京大学名誉教授の吉田邦夫先生が、メルケル独首相が2020年3月18日に行った演説（原文と和訳）<sup>6)</sup>を教えて下さった。以下の和訳抜粋を読んで彼我の差を感じるのは筆者だけであろうか。



親愛なるドイツにお住いの皆様

コロナウイルスは現在わが国の生活を劇的に変化させています。私たちが考える日常や公的生活、社会的な付き合い——こうしたものすべてがかつてないほど試されています。

（中略）

私は今日このような通常とは違った（TV演説という）方法で皆様に話しかけています。

それは、この状況で連邦首相としての私を、そして連邦政府の同僚たちを何が導いているのかを皆様にお伝えしたいからです。

開かれた民主主義に必要なことは、私たちが政治的決断を透明にし、説明すること、私たちの行動の根拠をできる限り示して、それを伝達することで、理解を得られるようにすることです。

もし、ドイツにお住まいの皆さんがこの課題を自分の課題として理解すれば、私たちはこれを乗り越えられると強く信じています。このため次のことを言わせてください。

事態は深刻です。

あなたも真剣に考えてください。

東西ドイツ統一以来、いいえ、第二次世界大戦以来、これほど市民による一致団結した行動が重要になるような事態がわが国に降りかかってきたことはありませんでした。

（長い中略）

皆様、ご自愛ください、そして愛する人たちを守ってください。ありがとうございました。

#### 参考文献

- 1) 加藤周一；夕陽妄語 ソムリエの妻、朝日新聞夕刊、(2001)、10月24日。
- 2) Irene Dische；Als wir noch Kinder waren、[https://www.zeit.de/2001/39/200139\\_nyutopie.xml/komplettansicht](https://www.zeit.de/2001/39/200139_nyutopie.xml/komplettansicht)（アクセス日2020.4.25）
- 3) 吉田英生；岩手、宮城、福島、そして東京、エネルギー・資源、34-1 (2013)、p.63。 [http://www.wattandedison.com/iwate\\_miyagi\\_fukushima\\_and\\_tokyo.pdf](http://www.wattandedison.com/iwate_miyagi_fukushima_and_tokyo.pdf)（筆者が管理するサイトのためURL変更はなし。）
- 4) 門田隆将；死の淵を見た男 吉田昌郎と福島第一原発、(2016)、p.379、角川。
- 5) 山村宏樹；楽天イーグルス 優勝への3251日、(2013)、p.98、角川（現在は電子版のみ）。
- 6) 林フーゼル美佳子訳；コロナウイルス対策についてのメルケル独首相の演説全文 <https://www.mikako-deutschservice.com/post/コロナウイルス対策についてのメルケル独首相の演説全文>（アクセス日2020.4.20）